

神祇の裁定

三代目 東核芒種大伝道師

加古藤市

〒474 0056

愛知県大府市明成町一丁目175
〇五六二 四四 〇七〇八

あまつかみ こくつかみ しんぎ
天津神・国津神「神祇の十字の裁定」
さいてい

昭和二十年四月十二日の事に、れいめい霊命（天命）の神「天津神」と、あまつかみ生命の神「国津神」とが十字に交わりに成り、しんぎ神祇の神（いせいいなり伊勢生成の神）の裁定が、あまくたアメリカの大統領と日本の昭和天皇と中華民國の蒋介石総統閣下とに、あまくた天降されたので御座居ました。

まず第一に世界最大の経済軍事大国でありますアメリカの国の大統領に「ここまで戦争すればこの生命界には何の益も無く、人間の我の争いである事が解つたでありましょう・・・。これ以上に戦争を迫行すれば、後始末が出来ぬ原子戦争ミサイル時代を迎えてしまう事に成るのです。直ちに原子爆弾製造を中止して、日本国天皇と話し合う事が寛容であります。」と仰せに成られたので御座いました。

然しながら其の神祇の裁定に大統領は従う事が出来ず、原子爆弾製造を露わにされ、其の日の中に生命を召され旅立たれたので御座居ました。

次に日本国昭和天皇は、神祇の神の裁定にお従いに成り、杉山元帥をお呼びに成られ、日本国軍が押し進めて居る原子爆弾の製造を直ちに中止させに成り、即刻停戦の詔勅を出さんとされるのでありましたが、今、朕が無条件降伏する事は安けれど、明治・大正・昭和の三代に渡りした戦争が、総べて他国の領土でした戦争なれば、総べての戦争が侵略戦争であり、其の戦争に天皇の名の下に呼び出され、勇敢に死に逝きし靖国の御靈魂の総てが犬死となるのでは降伏もままならず、途方に暮れる日々の中に本土決戦の日が、刻一刻と迫り来るのでありました。

その最中、陛下の御意志の内に初代の伊邪那岐尊がお出ましになり、「戦争に殉死して逝く勇士たちが何と言って息氣絶えて逝ったかを知瑠が良い」と仰せになられたので御座居りました。

昭和天皇は其の御詞に「ハッ・・・」とお気付きになられたのが、戦争殉難者の御靈魂の声でありました。「このような戦争で親子・兄弟・夫婦が死に

別れて逝く事は我らだけでよい。二度と戦争の無い国が、世界が望しい」と叫び息氣絶えて逝く兵士の姿を映し觀せられた時に、此の靖国の御靈魂の御意志をその儘に、日本の国の最高の權威、憲法第九条に示し掲げる事を、神祇の神（生命の神）と約束に成り、戦争に殉難死された靖国の御靈魂を犬死からお救いに成られたので御座居りました。

そして昭和二十年八月十五日に戦争終結の詔勅をお降下しに成り、その靖国の御靈魂の精神によって、日本の国を敗戦国ではなく、憲法第九条を以って世界の恒久平和の基の国と為す世界の聖国と成る事が出来、神祇の神の裁定にお従いに成られたので御座居りました。

次に神祇の神の裁定が中華人民共和国（中国）の蒋介石総統閣下に次のように天降されたので在りました。

「例えどんなに辛く苦しくとも中国は、後日の世界恒久平和を迎える為に、日本国を許し置かなければ成らぬのです。」と仰せに成られたので御座居まし

た。

蒋介石総統閣下は、神祇の神の裁定が理解出来ず、「何故に我中国がああ残酷な日本国を許さなければ成らぬのか。」と、神祇の神の御意津（生命の神の大御意志の施津）の程を計り兼ねるのでありました。

「然しながら改めて自国の国情を見るとときに、今、私がどれ程に頑張つて見ても、この広大なる中国を一つの国に纏める事は出来ず、内戦状態のまま日本が降伏すれば中国が世界の中西問題の背負われ、内戦を激化させられたのでは、中国人民として絶えられず、若しも私が日本の国を許したならば、中国人民は蒋介石を見捨て毛沢東の元に走り一気に中国が統一されるであります。中国人民の福祉の為に、原子爆弾を製造して使用した国に、核兵器時代の世界の平和を任す事は出来ず、【八紘一宇】大東亜共栄圏を唱えて戦い破れ、新たに変わり行く日本の国と中国が、アジアの国々と大和

の靈魂を以つて世界平和に貢献しよ。」との、【神祇の神の大御意志】裁定でございましたか。」と、蒋介石総統閣下は、お悟りになられたので御座いました。

昭和二十年八月九日に長崎に原子爆弾が投下された直後に、蒋介石閣下は時の都でありました重慶より中国を代表され、聯合國の一人として、日本の四分割占領に反対され、「天皇の事は日本国民の決める事であり、他国の者が口出しする事すでに侵略である。」とアメリカにイギリスにロシアに打電をされたので御座居ました。

そして其の上で一度許した以上、賠償金は求めず、日本国兵士の一人も捕虜にする事なく、復員帰還遊ばさせ、早々と台湾に隠遁されたので御座居ました。この事を今、改めて知理置かなければ日本の国は成り立たぬのです。

それに今ひとつ知り置かなければならぬのが、與謝津・天記津州と言う詞・地名の中味であります。

そもそも植物にしても、動物にしても、人間にしても、何処で生命と誕生

したのでありましようか・・・？それが日本列島の中に在ります「與謝津
天記津州を、生命の免疫所に天命が定められたのでありました。それ故に
天命が記された施津（目には見えないせかいのこと）の州「天記津州」と名付け置かれ
た州の在る国を日出ずる日ノ本の国であると認知して置かなければ成らぬの
です。

又、三位一体の「命」植物・動物・人間の元生産親の事を「皇親」三代太
元帥明王と太元法を以って唱えお祀りして居るのが日本国であります。

目に観る事の出来ない霊命天命であります丹生丹生魂遺伝子を其の儘に継
承続けて来た御姿が天皇で御座居ます。日本国の憲法第一条で御座居ます。

今のイラクの国を見れば明らかなように、一度戦いと成ってしまった戦争
を誰が止める事が出来るでありましようか・・・？

もしもあの時（昭和二十年八月十五日）日本の国に、天皇と制がなければ誰に戦争

をものの美事に止め得る事が出来たでありましようか・・・？正に奇跡と言
う外なく、唯一度の昭和天皇の戦争終結の詔勅に、一人の違反者も無く神掛
かりの内に、見事に戦争を終息させて、停戦と同時に憲法第九条の基、世
界平和の為の国とされ賜いたので御座居ました。

更に此の「與謝津・天記津州」日ノ本の国は、総べての「生氣物」植物・
動物・人間の生命の初めの国で在るが為に、御難賛助（五男三女）の御誓約の国
で、東西のいずれの国の生命にも、荷担できないために日本の国である事を
忘れる時が、日本国の滅亡する運命の中に在ることであります。

それ故に先の国難の時にも、日本国憲法第一条に「すめらぎ」天皇の御位
を定められ賜い、憲法の第九条には悠久の国の初めの運命が織り成されたの
で御座居ました。

この霊命「天津神力氣」と生命「国津神力氣」の大御意志（御意津）に背き、
若しも日本の国が今も後始末の出来ぬ放射能の雨を撒き散らしたアメリカと
軍事同盟まがいの協力の元に、本来は無い筈の自衛隊に武器を持たせてイラ

クに派兵させたるは・・・。

明治・大正・昭和とアメリカとイギリスの武器の自由商人（フリーメイソン）に日本の国の政治指導者たちの御霊が、埒され続けて来た事を証明したのですが、自国が在る国の位置まで忘れての米国への負担は許される事では無いのです。

各の如き日本国の態度は、中国へ恩を仇で返すと同じ事で、日本の国の安全を保障する事にはならず、世界の平和への逆行と成って仕舞い、神祇の神の神敵を越えるもので、決して生命の神はお許しに成らず、直ちにイラクから自衛隊を帰還させ、改めて自国の神（伊勢生成の神）にお詫びをしなければ成らぬのです。

世界平和神宮院の建設を

日本の国の天皇家に在ります三種の神器の中の民草和氣の剣は、人間人類の大祖人「初代」伊邪那岐命（尊）と「初代」伊邪那身命とが、宇宙産迂迦

の障壁賀に御座居ます、天の意和戸を出られる時に「絶対に争い戦いは致しませぬ」と御誓約（約束）をされたので御座居ました。

ハヤスサノ才尊が「御難賛助（絶対に争いをしない事は、大変困難な事ですが、お互いに賛同して助け合いをしていきましよう）の御誓約（約束）」に基づき、美濃国の金産山（金山）の鉄鉱石を以って、民草和氣の剣（民衆が争わないで和を以って行く意志靈魂の証の剣）に現しに成られ、伊勢神宮にご奉納遊ばされたので御座居ました。

その民草和氣の剣を倭姫命の命により、日本武尊は尾張族が当時日神山にお祀りしていました伊勢神宮にお移しに成り、宮簀媛にお預けになられました。現在の愛知県名古屋市緑区大高町日上山（熱田神宮の元宮）でございます。後に持統天皇が生命の神「伊勢生成の神」にお詫びに成られ、尾張族の宮簀媛命の御意志に感謝遊ばされ人類の平和の為に、氷上姉子神社をお建てになられました。

今こそ「神祇の神の大御意志」「民草和氣の御意津を以って世界恒久平和の為に、全世界の戦争殉難死された御靈魂を一神堂に御集めしてお祀り申し上げ、

與謝身天皇を初めとして、全人類が参拝する事が出来る【世界平和神宮院】
を建設けんせつ為し、日本国憲法第九条の生産親昭和天皇の御靈魂みたまどころ処【昭和神宮】を
竝宮ならびのみやとして建設申し上げ、世界恒久平和の為に一大世界環境觀光産業を興おこ
すべし」と神祇の神が仰せで御座居あす。

合掌

平成十六年四月九日